

みなとしみず



国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146 (代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」が初入港！
- ・みなとしみず発行から25年を迎えて
- ・特定地域振興重要港湾沿津港で防災訓練を実施
- ・速報 日本港湾協会第88回定期総会
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」①(全5回)
- ・シリーズ「徳川家康と清水港～清水港を水軍の基地に～」①(全4回)

大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」が初入港！

平成27年5月16日(土)、大型客船「ダイヤモンド・プリンセス」が清水港に初入港しました。

清水港に入港した客船としては過去最大で、全長290m、総トン数115,875トンの豪華客船を一目見ようと、多くの市民が日の出埠頭を訪れました。

日の出埠頭では、歓迎式典が行われ、静岡の名産品を販売したマルシェや、着物の着付け体験など、多くの乗客で賑わっていました。同日夜の出港時には、和太鼓や花火の打ち上げなどで大型客船を見送りました。

清水港日の出埠頭に入港する国内外のクルーズ船は、富士山の世界文化遺産登録の効果もあり、平成26年度は前年6隻の2倍となる12隻が寄港しています。平成27年度も同数以上の寄港予定となっています。

平成26年度に清水港に寄港したクルーズ船12隻、帆船1隻を含む13隻による経済波及効果を試算したところ、約8.3億円(1隻換算では6,400万円)に及び、観光・港湾関係産業の雇用創出や売上げ等(取得増加)につながったと推計されました。



みなとしみず発行から25年を迎えて

清水港湾事務所の広報誌「みなとしみず」は、今月で発行されて25年の節目を迎えます。これまで、各号の発行にあたり、編集・取材にご協力頂きました数多くの関係者の皆様方にあらためて御礼申し上げます。

平成2年6月の創刊号には、当時の清水港工事事務所中村所長の発行にあたっての言葉が掲載されており、「事務所に引きこもっているのではなく、積極的に地元との交流を大いに図り、より優れたウォーターフロントづくりを行い、また、お手伝いをしていきたいとの思いを込めて広報誌を発刊する」とあります。

主要な港湾施設を建設する工事事務所としての役割のみならず、港を取り巻く地域の情勢に目を配り、耳を傾け、将来を見据えたより良いみなとづくりが行われるように港湾管理者をはじめとする行政機関や利用者らと更に深く交流しようとする思いが広報誌の発行に込められているものと理解しております。

四半世紀の時代を超えて、この思いが継承され、一方的な情報発信に留まらずに、地元の関係者と大いに交流しながら、みなとづくりに関わる様々な協働の取り組みを続けてこられたのも皆様の支えがあったからと心より感謝申し上げます。

これからも、地域を豊かにし、安全で快適なみなとづくりを末永く継続できるように事務所一丸となって取り組んで参りますので引き続き変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

清水港湾事務所 加賀谷 俊和

特定地域振興重要港湾沼津港で防災訓練を実施

広域かつ甚大な被害が予想される南海トラフ巨大地震を想定した防災訓練が5月8日(金)に、沼津港で実施されました。

沼津港は、観光の地域振興に重要な役割を果たすことが期待される港湾として、平成12年度に特定地域振興重要港湾に指定されています。

特定地域振興重要港湾における、自治体・国・地域関係者による官民連携の防災訓練は全国で初めての試みです。観光振興を果たす沼津港にとって、災害時における迅速かつ的確な応急活動は重要な課題であるため、連携体制の確立や防災力向上を目的に実施しました。

訓練には、中部地方整備局から浚渫兼油回収船「清龍丸」(名古屋港湾事務所所属)が参加し、油回収訓練に加え官民連携訓練として、防災ヘリコプター『オレンジアロー』(静岡県消防防災航空隊所属)による人・物の輸送訓練や、負傷者の救助訓練、地元漁協(我入道漁協所属)の小型船舶による緊急支援物資輸送訓練を実施しました。ひき続き沼津港関係者による津波に備えた水門「びゅうお」の閉鎖訓練ならびに沼津港関係者による津波避難訓練も併せて実施しました。

また、翌5月9日(土)には、第43回沼津水産祭において、海上クルーズ船による「清龍丸」の一般公開を実施しました。一般公開では約780名の見学者が訪れ、大規模油流出災害に備える油回収機能や東日本大震災直後の緊急物資輸送にも従事した災害支援機能などについて、説明を行いました。



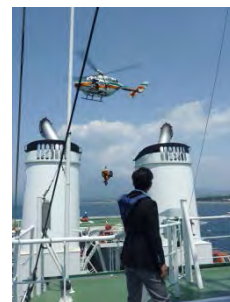
◀ 防災訓練状況「びゅうお」 ▶



◀ 海上クルーズ船からの油回収機能公開 ▶



◀ 防災ヘリ訓練状況① ▶



◀ 防災ヘリ訓練状況② ▶

浚渫兼油回収船「清龍丸」の概要紹介

「清龍丸」の行う業務

○通常は、航路、泊地等の浚渫作業。

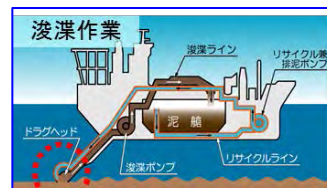
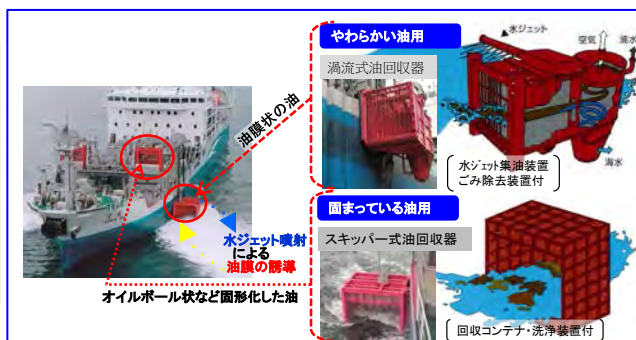
- ・高精度で平坦浚渫を可能とする幅広い新型ドラグヘッドを装備。

○大量油流出時には、速やかに流出現場に向かい、油回収作業。

- ・油の状況に応じた2種類の回収器を装備。

○災害時には、災害支援作業(災害情報収集、救援物資輸送、給水、電力供給等)。

- ・情報収集・発信のための通信システムや防災要員・物資運搬等のためのヘリデッキを装備。



油回収タンクに約1時間で1,000kl(ドラム缶約5千本分)の油水を回収可能。

速報 日本港湾協会第88回定期総会

5月27日（水）に静岡市清水区のマリナートで日本港湾協会第88回定時総会が開催されました。

総会には、望月環境大臣、西村国土交通副大臣、川勝静岡県知事、田辺静岡市長、国土交通省大脇港湾局長、宗岡日本港湾協会会長、全国の首長などをはじめ約800名の港湾に関係する方が参加されました。

総会は、主催者である宗岡会長の『インフラは、国力形成する産業力、地域都市力の根幹をなすものであり、国民の安全安心を守り、日本の競争力を強化し、地域の活性化に資するもの。協会としても選択と集中の精神のもとで、港湾インフラの整備や老朽化した施設の更新に皆様とともに力を合わせ、今後も強力に取り組む』という力強い挨拶から始まり、主催県代表の川勝静岡県知事が『この港湾協会の定時総会が実のある議論がなされ、89回100回に向けて素晴らしい発展を遂げられていくようにご祈念する』との挨拶、主催市代表の田辺静岡市長が『今日の議事がこれからの素晴らしいそれぞれの地域の港湾発展に貢献し、ここ清水で交流ができますことを心からお祈りする』との挨拶をされました。



《清水マリナート大ホールでの定時総会》



《宗岡日本港湾協会会長》



《川勝静岡県知事》



《田辺静岡市長》

また、来賓として臨席された望月環境大臣から『厳しい時代ではあるが、今の港湾インフラ整備は、さまざまな形で次世代に恩恵を与えることが期待されるもの。そのために予算確保と整備を継続していくことが重要であり、今ここにいる港湾関係者の方は使命を持った人たちであり今後も一致団結して協力していくことが必要』との挨拶をいただき、同じく来賓として臨席された西村国土交通副大臣から『港湾は、地域の経済を支えるインフラとして重要な役割を担っており、経済波及効果や雇用を生み出すなど地方を元気にするうえで必要不可欠な存在。国土交通省としても各地域で活躍する皆様の取組を支えるため、港湾の整備、地域活性化を引き続き進めていく』との挨拶をいただきました。

その後、アオキトランス株会長である望月薫氏が会長を務める清水港客船誘致委員会と清水港・みなと色彩計画推進協議会の取組が「富国徳の清水港風景づくり」として日本港湾協会企画賞に表彰されたほか港湾功労者の方々への表彰が行われ、議事では、会員から港湾の整備・振興に向けた意見発表がされるなど有意義な定期総会となりました。



《望月環境大臣》



《西村国土交通副大臣》



《港湾協会企画賞表彰 望月薫会長》



《功労者表彰状況》



《会員による意見発表》

また、翌5月28日（木）には、平成27年度港湾政策研究所講演会 in 清水「家康公ゆかりのみなとと清水港の歩みと未来」と題した講演会が開催され、主催者の日本港湾協会 須野原豊理事長の『震災後の復興、我が国の国土強靱化、国民の安心安全の確保、明るい未来に向けて各地域の創生がますます重要になってきている。我が国歴史上の家康公にゆかりのある清水港についての議論をして港の地域の活性化について思いを巡らせ、清水港の将来に向けた展開を題材として地域の発展とみなとみらい、さらに日本の将来等について皆様とともに考える機会となればと思います』との挨拶の後、徳川宗家第18代当主 徳川恒孝氏による「清水港と家康公」と題した基調講演と、「清水港のこれから」をテーマとしたパネルディスカッションが徳川氏をはじめ、海洋研究開発機構地球深部探査センター長代理 倉本真一氏、東海大学海洋学部教授 東恵子氏の3名のパネリストに静岡新聞論説委員 海野俊也氏をコーディネーターにむかえ開催されました。パネルディスカッションは、コーディネーターの巧みな進行と各パネリストのそれぞれの専門分野から見て『清水港のロケーションと地形の有利さ、港に良い機能が必要』《徳川氏》、『駿河湾の地形から心配される大規模地震による津波に備えた効果的な防災対策と街づくり、避難対策の必要性』《倉本氏》、『官民一体となって港を中心に風景や空間を作り、人々との交流を作ることがこれからの清水港を担ってくる』《東氏》などの意見や議論がなされ、最後にコーディネーターより『中部横断道により清水港のポテンシャルは今後さらに高まるなか、港文化を大切にしつつ新たな可能性が開くよう地域と市県国が一丸となって港のあるべき姿を考え行動していくことが重要。さらに各地の港というのは地域にとってとても重要な存在、未来の扉を開く可能性を引き出すカギ。経済界、行政、地域の方々が一体となって港の役割や重要性に対する認識を深め各地で港を核とした地域創世の取り組みが進展していくことが必要』とのまとめがされ、これからの清水港を考えるうえで大変有意義な講演会となりました。



《主催者挨拶 須野原豊理事長》



《基調講演兼パネリスト 徳川恒孝氏》



《コーディネーター 海野俊也氏》



《パネリスト 倉本真一氏》



《パネリスト 東恵子氏》



《パネルディスカッションの様子》

静岡県での開催は24年ぶりであり、総会を盛り上げるため中部地方整備局名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船[清龍丸]の一般公開を同時に清水港で行い、「清龍丸」がどのような場面で社会に貢献しているかなどについて広く一般の方に公開し、約350人の大変多くの方が訪れました。

一般公開に参加された方からは、「災害時にも助けてくれそうで安心できる」などの多くの意見をいただくなどその必要性について、十分に理解されたと感じています。



《パネリストの方々の視察》



《一般公開 清龍丸への乗船状況》



《一般公開 操舵室での説明》

シリーズ「クルーズ船プロフィール」①（全5回）

今回より最近、清水港にも入港する機会が増えた「豪華客船＝クルーズ船」について、ご紹介します。

2010年以降、日本でもクルーズ船が多く入港するようになり、横浜港、神戸港だけでなく、清水港にも「飛鳥Ⅱ」「セレブリティミレニウム」なども寄港するようになりました。特に富士山が世界遺産認定されて以降は、駿河湾より富士山を見ながら出入港出来る清水港へのルートは、乗客だけでなくクルーズ船のクルー（船内スタッフ）からも人気があります。

現在、世界を就航中のクルーズ船は約150隻あり、いくつかのクルーズ会社が所有しています。大手としては「カーニバルクルーズ」や「ロイヤルカリビアン」などがあり、日本でも人気のある「クイーン・エリザベス」を所有している「キュナードライン」は「カーニバルクルーズ」の傘下にあります。

クルーズ船は、もともとヨーロッパとアメリカ大陸を結ぶ移動手段として発達しました。19世紀から20世紀初頭にかけては、アメリカに移住する人々が増えたため、各船会社は客船をより大型化、高速度化が進みました。スピードを重視し、安全面を軽視した運行の結果、「タイタニック号」（ホワイトスターライン）は、不幸な事故に見舞われる結果となってしまいました。

その後、二つの世界戦争の間も、高速化した客船は兵士の輸送手段として活躍し発達しました。

1960年代後半ジェット機の発達により安易に安価、高速で移動が出来るようになると、定期旅客船は人々の移動手段としての役割は終わり、徐々に優雅で豪華な時間を楽しむ人々の旅行手段「クルーズ船」として進化していきます。1969年に就航した「クイーン・エリザベスⅡ」（約70000トン）は1990年ワールドクルーズ途中に寄港しています。抜群の知名度と人気の豪華客船の入港とあって、当日は9万人もの人が清水港を訪れたそうです。

90年代になると造船技術の発達とともに、船体が5万トン前後、1000人ほどが乗船出来る客船が増え、さらに後半には10万トンを超え、2000人を超える人々が一度にクルーズを楽しめるようになりました。

クルーズ船はカジュアル、プレミアム、ラグジュアリーと大きく3つのカテゴリーに分かれます。カジュアルクラスの客船は、ファミリーでもクルーズが楽しめるように、食事付で1泊あたり100ドル程度から乗船可能で、大人と同室の18歳未満の子供についても無料になるサービスを展開しているものもあります。また最近では世界最大の客船「アリュールオブザシーズ」22万トン（乗客5000人）などの大型船がこのグレードに導入されています。

プレミアムクラスは、「セレブリティミレニウム」や、「ダイヤモンドプリンセス」などがこのクラスになります。料金も1泊あたり200ドル程度から上昇する分、客室の広さやレストランの料理の質、船内の雰囲気も落ち着いたものになります。またカジュアル、フォーマルなどの夕方からのドレスコードも厳格になりますが、クルーズならではの洒落を楽しむ絶好の機会でもあります。



今年4月清水港にも入港した「セレブリティミレニウム」

ラグジュアリークラスは、1泊あたり500ドル程度からと、かなり高価な船旅になります。清水港にも昨年入港した「クリスタルシンフォニー」がこのクラスの船です。船の大きさは、3万トンから5万トンほどの大きさのものも多く、乗客も500人から1000人程度の比較的小型の船になります。その分、船室の広さやレストランやバー、パブリックスペースに余裕があり、ゆったりと船の旅が楽しめます。また小型になった分、大型船では入港できなかった港へも寄港できるようになるメリットもあり、人気があります。

※ このシリーズは県内で知る人が少ない「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載1回目です。山口博史（やまぐちひろふみ）昭和43年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012年より昨年までクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に同乗

シリーズ「徳川家康と清水港～清水港を水軍の基地に～」①(全4回)

家康が駿府に在住した期間は大きく分けて3期ある。幼少期から青年期、今川氏の人質として初めて駿府の地を踏んでから桶狭間の戦いまでの10年7カ月。豊臣秀吉の天下統一期、浜松城主から駿府城主となった3年8カ月。江戸幕府を開府した後、将軍職を2代秀忠に譲り駿府に退隠してから死去するまでの8年11カ月である。3期合せて23年1ヶ月を数え、家康74年の生涯のうち駿府に在住した期間が約3分の1を占める。家康にとって駿府はまさに第二のふるさとであった。

具体的資料には乏しいが、家康が駿府に在住した期間に清水の地に幾度となく訪ねたことであろう。初めて清水湊(清見潟)を目にしたのは、おそらく清見寺に太原雪斎長老を訪れた幼い時であろう。今川義元の軍師であり、臨済寺と清見寺の住持を兼務していた晩年の雪斎に学問を習ったと伝えられている。両寺には「家康公手習いの間」が今も残っている。

清水港が湊(津)としての機能を備えるようになったのは、平安時代末から鎌倉時代初期の頃と推察されている。このころ、巴川右岸には入江の地を中心に入江庄が形成されていた。駿河の国司を歴任した後にこの地に土着した藤原南家の末裔 藤原時信がこの荘園を開発し、その子 右馬允維 清 が入江氏を名乗り、土着の武士として活動した。

入江氏は当時の巴川の河口に近い入江白髭神社の西側、海船川(大沢川旧流)と巴川との合流点に津を設けていた。この津(江尻湊・入江津)が清水湊の前身である。

室町時代、この地を支配した今川氏は駿府の外港として軍船の基地を設置し、また、商業港として活用した。今川輝元・義元の時期には湊の付近に江尻の三日市、入江の七日市が開市されていた。

戦国時代末期、甲斐の武田氏が駿河に進攻し、江尻湊の対岸に江尻城を築いて駿河支配の拠点とした。そして東の北条水軍に対抗するために巴川河口付近に袋城を築いて水軍の基地としている。

天正10年(1582)、信長家康連合軍の武田攻略の際、袋城は家康に攻め落とされている。この袋城跡は、秀吉の小田原北条攻めや大坂夏の陣の折に、兵站 基地として利用されている。

徳川家康は全国制覇の後、慶長12年(1607)大御所として駿府城を築き、二元政治を展開した。江戸の2代将軍秀忠には幕府体制の土台固めと関東以北の統治をまかせ、家康自らは駿府で軍事指揮権と外交権を掌握していた。駿府に近い清水湊は駿府の外港として軍事的経済的に重要な湊に位置づけした。

家康は駿府城に移ると早速、村松の三ツ山(現 羽衣橋南側、静清浄化センター付近)に御船蔵を建て 関船を設置して徳川水軍の基地を築いた。武田水軍の将であった向井 将監 正綱を御船手奉行、小浜民部小輔元隆を御船手頭に任じ、水夫 50人を配置した。関船には家康御召船として長永丸(長さ10間5尺4寸、46挺立)、頼宣御召船大広丸、他に御供船に小竜丸、吉岡丸、鷺丸など5艘を配備した。

当時、徳川家康は全国制覇をしたものの、西日本には豊臣氏は存続し、その恩顧を受けた大名勢力も気がかりの存在であった。その意味で、清水港は駿府攻権にとって重要な軍事拠点であったのである。



◀東照大権現像(徳川記念財団蔵)▶

※ このシリーズは「徳川家康と清水港」について杉山氏の寄稿によるもので、今回は連載1回目です。

杉山 満(すぎやま みつる)昭和11年、静岡市清水区生まれ。日本考古学協会会員。清水郷土史研究会顧問。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

・海やみなとの利用に関すること
・総合的な学習時間に関すること
・みなとの構想や計画に関すること
・海洋土木技術に関すること
・みなとの防災に関すること
その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

